

火災の発生・鎮火、停電に関する放送は、原則、行わない 消防団の出動命令の放送も、原則、行わない

防災行政無線放送の新方針に市民から疑問や批判続出

上越市はいま、総合事務所の時間外受付の見直しを進めています。それによると、早ければ来年4月から、柿崎区、浦川原区、板倉区以外の総合事務所では、平日の17時15分から翌日の8時30分まで、土日・祝日は全日の時間外受付をしないことにしたいとしています。

それに伴い、防災行政無線の放送についても変更し、①火災の発生・鎮火、停電に関する放送は、原則、行わない。②

消防団の出動命令については、消防団メールにより団員へ出動命令を出し、参集対応を図っていることなどを踏まえ、防災行政無線による出動命令は、原則、行わない。③ただし、火災で大規模な延焼のおそれがある場合や大規模かつ長時間の停電が生じた場合は、この原則によらず対応するとしています。

こうした方針について、上越市の担当課や総合事務所は、これまで関係区の地域協議会や町内会長連絡協議会などに説明し、意見を聴いてきました。

説明を受けた人たちからは、「納得できない」「不安を感じる。消防団だけでなく、町内会にも影響が出る」「火災が発生したとき、避難や初期消火に支障が出ないか不安だ」などの声が相次いでいます。

私のところにも関係区の市民から、「何で、こんなことまでやめようとしているのか」「行政改革のひとつということなのだろうが、もっとやるべきことがあるのではないか」「産業建設グループの集約に続いて、総合事務所の集約への一歩では…」などの疑問や批判の声が寄せ

られています。

市議会での議論はこれから

市議会では、これらの問題について市側から十分な説明はなく、議論は始まったばかりです。

9月18日に行われた総務常任委員協議会では、消防団再編に関する質疑の中で、私から、「防災行政無線による消防団出動命令を（原則）やめるというが、千葉の台風被害を見てもメール以外の方法をもった方がいい。多くの市民は心配している。考え直すべきだ」と訴えました。

これに対して宮下防災危機管理課長は、「千葉のような大停電になったらメールも使えないと思う。糸魚川のような大規模な火災の延焼を防ぐ場合は躊躇（ちゅうちょ）なく防



災行政無線は使う」とのべ、大規模でない場合については言及しませんでした。

今後、議会でも大いに議論していきます。



【ヒメジロ】再掲。シソ科の1年草。漢字で「姫紫蘇」と書きます。背丈は20センチから60センチ。9月～10月に淡紅紫色または白い花を咲かせます。花の形は唇形で、タヌキの顔に似ているという人もいます。花言葉は「秘めやかな思い」。うっかり異性にプレゼントしないようご注意ください。

越後よしがお酒祭り、今年も午後から天気が回復し、賑わいました。利き酒用銘酒は今回も全国から二百近く寄せられました。

酒造り唄では、父と一緒に酒造りをしたことのある柳沢さんなどが元気な歌声を今年も聴かせてくださいました。

庄野真代のライブを聴くのは数年ぶりです。「飛んでイスタンブール」「愛と平和の歌」など、甘くて伸びのある歌にはしびれました。テントでは何人もの懐かしい人と再会しました。うれしかったです。

酒造り唄、今年も賑やかに 庄野真代コンサートも



はしづめ法一の 活動レポート

No.1929 2019.10.13
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

QRコード
ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五七七回 遠い日の思い出

先日、八四歳で亡くなったHさんの壇参りに行ってきました。同じ町内会であったこともあり、Hさんには、いろんなことでお世話になりました。

お参りした後、お連れ合いと一緒にお茶を飲みながら、五〇年ほど前のことを思い出し、語り合いました。面白いもので、それぞれの記憶に刺激されて、すっかり忘れていたこともいくつかよみがえりました。

そのなかでも最も印象に残ったのは、土方仕事のことです。

大学卒業後、家に戻った私は、家業の酪農の手伝いをしていましたが、賃金収入がほしくて、近くの砂防ダム建設工事現場に行き仕事をしてもらいました。Hさんはそのとき一緒だった人でもありました。

この砂防ダムは、当時、私が住んでいた蚩場を流れる釜平川に造られていたダムの一つでした。地元では「堰堤」（えんてい）または「砂防堰堤」と呼んでいました。上流から押し寄せてくるかもしれない土石流をこのダムで防ぎ、下流に被害をもたらさないようにするのがねらいでした。

砂防ダム建設現場は通称ナナトリという山へ行く途中にあり、わが家の田んぼもこの周辺に一五アールほどありました。

工事ではダムの基礎となる部分を掘ってコンクリートで固め、その上に堤となる部分を造って行きました。堤も、言うまでもなくコンクリートです。下の方から一定の高さごとに固め打ちしていく工程だったと記憶しています。

Hさんは、ワイヤーロープを張った工事現場でコンクリートや各種資材の上げ下ろしをする機械の運転係でした。「キャリア」とか「キャリア係」と呼ばれていました。極端な言い方をすると、ダム工事では、Hさんのような人がいないと主要作業はほとんどできなかつたと思います。

私はレバーを使って機械を自在に扱うHさんの姿を見て、「すごいな。さすがはプロだ」と思ったものです。現場では監督がいて、すべてを仕切っていました。Hさんは監督の次、または次の次くらいの重要な役割をされていたように思います。

工事を請けたのは相村建設。現場には二人前後の人たちが働いていました。そのほとんどは日雇いの労働者で、男性も女性もいました。私はその中の一人だったので、先ほど、「仕事をさせてもらった」と書いたように、当時の私は、スコップの使い方をわからない土方の素人でした。

そういう私を、「あんちゃ、突っ立っていったって仕事は進まんよ」と叱咤激励してくださったのが、Hさんをはじめとした現場の人たちでした。

Hさんのお連れ合いとの間では、私が初めて土方仕事をした当時のことも話題になりました。

多分、私が高校生だった頃の夏休みだと思えます。現場は、尾神の「ジユウイチダのウラ」（屋号）の裏山方面でした。ここも砂防工事で、平山工務店の請負でした。仕事は、「しよいかご」のなかに玉石を入れて運ぶことでした。じつにきつい仕事でしたが、初めて仕事をしてお金をもらった時の喜びは格別でしたね。

当時はこの農家でも田んぼ仕事以外の仕事に出ている時代でした。Hさんの家では夏場は土方、冬場になると、Hさん自身が酒造りに、お連れ合いやHさんの母親は、赤倉温泉で「ご飯し」の仕事をされていたという話でした。

いま、振り返ってみると、土木現場での仕事の経験があったからこそ、その後、電柱の穴掘りなどの肉體労働ができるようになった。いまとなつては遠い日の懐かしい思い出です。

頸北消防署の移転整備は早期に実現を



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月2日(水)	10月9日(水)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.043	0.047
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.057	0.050
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.047

上越地域消防事務組合の定例議会及び全員協議会が7日、開催され、昨年度の一般会計決算の審査、今年度一般会計補正予算などの審議、第15次組合消防整備計画(案)の説明と質疑が行われました。

定例議会で私は、救急症例検討会の内容と課題、消防フェスティバルなどについて取り上げました。救急症例検討会は新潟県ドクターヘリ、病院合同などの症例検討会が昨年度29回行われました。このなかで、私はドクターヘリの出動要請基準を明確にするよう求めました。また、消防フェスティバルを来年度から中止するという事に関連し、「フェスティバルは好評で、特に子どもたちに喜ばれている。来年度も継続すべきだ」と訴えました。消防長は、「新庁舎の公開などいくつかのイベントの中で、これまでの取組の成果を生かしていきたい」とのべるとどまりました。

全員協議会で注目したのは、老

朽化が進んでいる頸北消防署庁舎の行方についてです。

(案)では、今後5年間に移転整備の検討を行うと記述されています。しかし、移転整備の検討はこれまでの計画でされることになっていたものが先送りされ、第15次計画案に盛り込まれたという経過があります。平成28年に策定された消防施設整備計画では、「頸北消防署については、適正配置による改善効果を早期に発現させるため、使用期間を目標耐用年数から数年程度短縮し、最適位置への移転を前提に検討する」となっています。私は、移転整備の検討だけでなく、その後の建設も急ぐよう求めました。

